

令和5年度 三重大学修学達成度評価 報告書（概要）

－三重大学生の4つの力に関するアンケート調査－

高等教育デザイン・推進機構
高等教育開発デザイン・IRセンター

1. アンケートの概要

1.1. アンケート1の設計

- (1) 調査対象 令和5年度新入学生
- (2) 対象者数 1,310名
- (3) 対象者選択法 全数調査
- (4) 調査方法 三重大学ウェブ調査システムを用いて実施した。
- (5) 調査時期 令和5年4月～令和5年5月



1.2. アンケート2の設計

- (1) 調査対象 三重大学に在籍する学部生
- (2) 対象者数 5,650名
- (3) 対象者選択法 全数調査
- (4) 調査方法 三重大学ウェブ調査システムを用いて実施した。
- (5) 調査時期 令和5年9月

1.3 分析対象者数

分析対象者は表1の通りであった。回答率についてアンケート1は83.7%、アンケート2は73.8%であった（前年度調査では、各々52.1%、81.3%）。

表1 分析対象者数

			人文	教育	医	工	生物資源	合計
アンケート1 (春)	学生数		245	200	205	400	260	1,310
	回答数	1年生	202	164	169	315	246	1,096
	回答率		82.4%	82.0%	82.4%	78.8%	94.6%	83.7%
アンケート2 (秋)	学生数		1,040	800	1,090	1,660	1,060	5,650
	回答数	1年生	240	204	197	399	266	1,306
		2年生	234	186	99	304	256	1,079
		3年生	222	146	63	369	226	1,026
		4年生	158	145	53	223	160	739
		5.6年生			19			19
	合計		854	681	431	1,295	908	4,169
回答率		82.1%	85.1%	39.5%	78.0%	85.7%	73.8%	

1.3. 分析対象者の属性

1.3.1. アンケート1の分析対象者の所属

アンケート1に回答した全回答者のデータより編入生を除いた1,096名を分析対象者とした。

表2 アンケート1（学部1年生対象・春実施）の分析対象者数

	人文		教育	医		工	生物資源				合計
	文化	法律経済	学校教育教員養成	医	看護	総合工	資源循環	共生環境	生物圏生命化	海洋生物資源	
小計	79	123	164	90	79	315	68	65	76	37	1,096
合計(学部ごと)	202		164	169		315	246				

1.3.1. アンケート2の分析対象者の所属と在籍年数

分析対象者は合計4,169名である。

表3 アンケート2（全学部生対象・秋実施）の分析対象者数

学科別	人文		教育	医		工						生物資源				合計		
	文化	法律経済	学校教育教員養成	医	看護	機械工	電気電子工	分子素材工	建築	情報工	物理工	総合工	資源循環	共生環境	生物圏生命化学		海洋生物資源	
在学年数	1年目	95	145	204	119	78	/	/	/	/	/	/	399	72	69	82	43	1,306
	2年目	89	145	186	33	66	/	/	/	/	/	/	304	71	69	77	39	1,079
	3年目	84	138	146	15	48	/	/	/	/	/	/	369	64	62	71	29	1,026
	4年目	65	93	145	16	37	/	/	/	/	/	/	223	44	38	57	21	739
	5.6年目	/	/	/	19	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	19
	小計	333	521	681	202	229	0	0	0	0	0	0	1,295	251	238	287	132	4,169
合計(学部ごと)	854		681	431		1,295						908						

2. 三重大学生の「4つの力」の結果

2.1. 全学生の4つの力

2.1.1. 全学生の「感じる力」



本調査では、「感じる力」の下位概念、①感性、②共感、③主体性に対する意識の3つについて、学生が自己を振り返ることができる項目を5つずつ設けている。学生は各項目について自分がその項目にあてはまると思うものをチェックした。項目と学年ごとの選択率を以下に示す。

①感性

「考えたことだけではなく、感じ取ったことも大事にしている」は、アンケート2（秋実施）の全学年を通して、他の選択肢に比べて選択率が高かった。

表 1 感性（感じる力）の選択率（全学部生）

	アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)					
	1年生・春 全回答数 1096件	1年生・秋 全回答数 1306件	2年生 全回答数 1079件	3年生 全回答数 1026件	4年生 全回答数 739件	5.6年生 全回答数 19件	全学生 全回答数 4169件
①感性							
相手が感じていることを同じように感じ取ることができる	78.8%	89.1%	88.6%	91.6%	90.1%	100.0%	89.0%
文章や作品などで表現をする際に、自らの感性を意識して行うことができる	74.8%	83.2%	83.8%	89.0%	87.5%	81.3%	84.7%
考えたことだけではなく、感じ取ったことも大切にしている	90.2%	95.2%	94.8%	95.4%	93.8%	100.0%	94.0%
学習の振り返りにおいて、獲得した知識だけではなく、感性の観点も意識することができる	67.1%	80.7%	82.0%	84.3%	85.4%	93.8%	82.0%
自らの感性がどのようなものかを意識することができる	66.7%	79.9%	80.5%	84.7%	84.3%	81.3%	81.3%

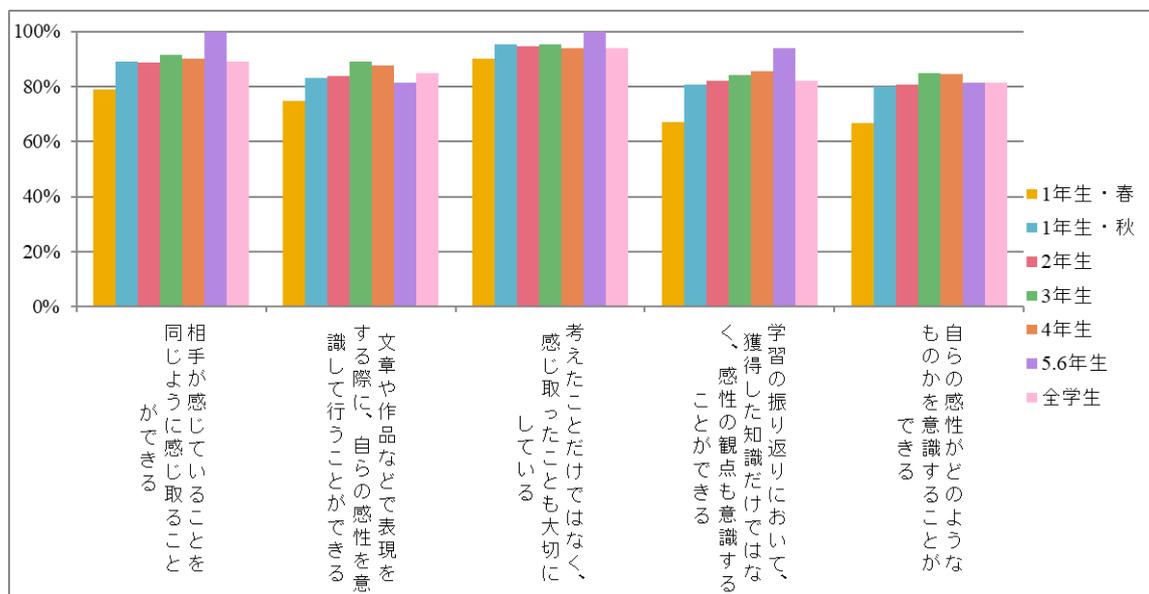


図 1 感性（感じる力）の選択率（全学部生）

②共感

「他者がおかれている状況を想像しながら相手の話を受け止め、共感的態度を示すことができる」や「他者の考えをくみとり、他者が行動しやすいように支援を行う」は、選択率が80%以上と非常に高かった。

表 2 共感（感じる力）の選択率（全学部生）

	アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)						
		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	5,6年生	全学生
		全回答数 1096件	全回答数 1306件	全回答数 1079件	全回答数 1026件	全回答数 739件	全回答数 19件	全回答数 4169件
感じる力	②共感							
	他者がおかれている状況を想像しながら相手の話を受け止め、共感的態度を示すことができる	89.8%	93.2%	93.9%	94.5%	93.4%	100.0%	92.9%
	他者の考えをくみとり、他者が行動しやすいように支援を行う	85.4%	88.2%	88.5%	91.5%	92.6%	100.0%	89.1%
	自分の考え・意見との相違にかかわらず、他者の意見・考えがなぜそれに至ったかをその人の立場に立って理解することができる	79.1%	86.8%	86.6%	89.8%	90.7%	100.0%	87.4%
	共感すべき対象や事柄が周囲にあるとき、それに敏感に気づくことができる	74.9%	80.2%	81.5%	83.8%	86.3%	100.0%	81.8%
社会の中で困っている人のことに思いをはせて、自分に関連づけて考えることができる	72.2%	79.0%	79.3%	84.1%	86.5%	100.0%	81.0%	

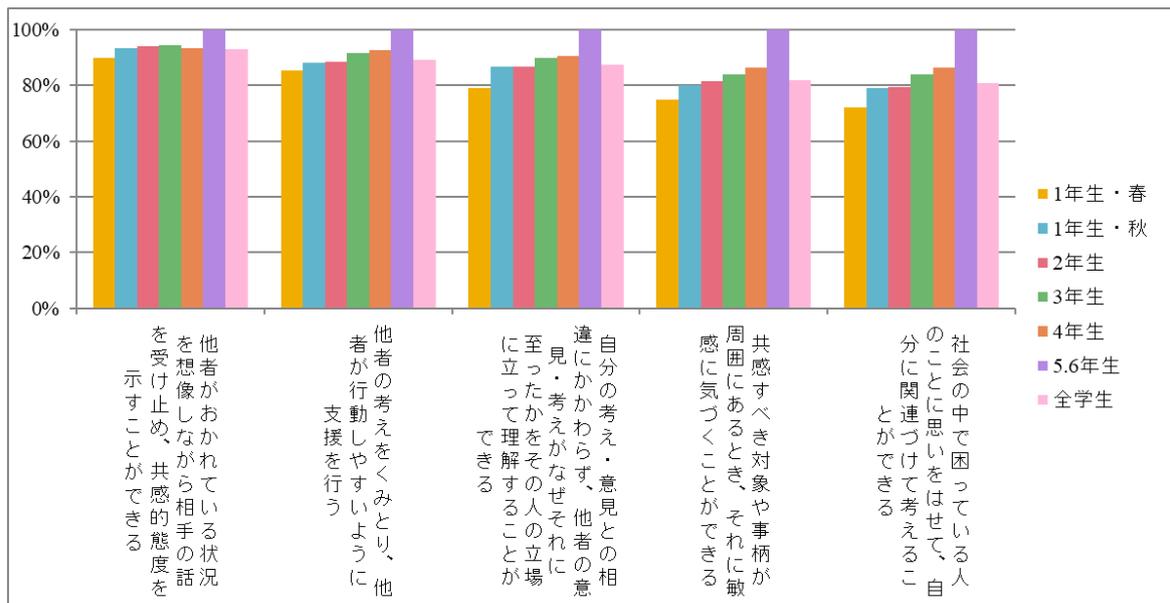


図 2 共感（感じる力）の選択率（全学部生）

③主体性

「誘惑に負けずに、学習すべき時間をきちんと自己決定して確保することができる」は、全学年を通して選択率が低い傾向が見られた。

表 3 主体性（感じる力）の選択率（全学部生）

		アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)					全学生 全回答数 4817件
		1年生・春 全回答数 789件	1年生・秋 全回答数 1336件	2年生 全回答数 1213件	3年生 全回答数 1241件	4年生 全回答数 1021件	5.6年生 全回答数 6件	
感じる力	③主体性							
	与えられた課題の中でも意義や面白さを見つ けることができる	73.3%	81.7%	81.8%	84.9%	87.5%	81.3%	82.7%
	常に長期的目標・短期的目標を設定し、意識 しながら大学生活を送っている	58.8%	69.5%	69.2%	72.5%	70.9%	81.3%	69.8%
	うまく進まなかったり、失敗したりした場合 でも、目標達成のために辛抱強くやり続ける ことができる	77.7%	81.4%	80.4%	83.6%	88.6%	93.8%	82.2%
	与えられたもの以外にも自分で調べたり学習 を進めている	52.2%	69.4%	73.5%	75.6%	78.4%	93.8%	72.9%
	誘惑に負けずに、学習すべき時間をきちんと 自己決定して確保することができる	55.4%	65.1%	67.6%	69.7%	74.9%	68.8%	67.9%

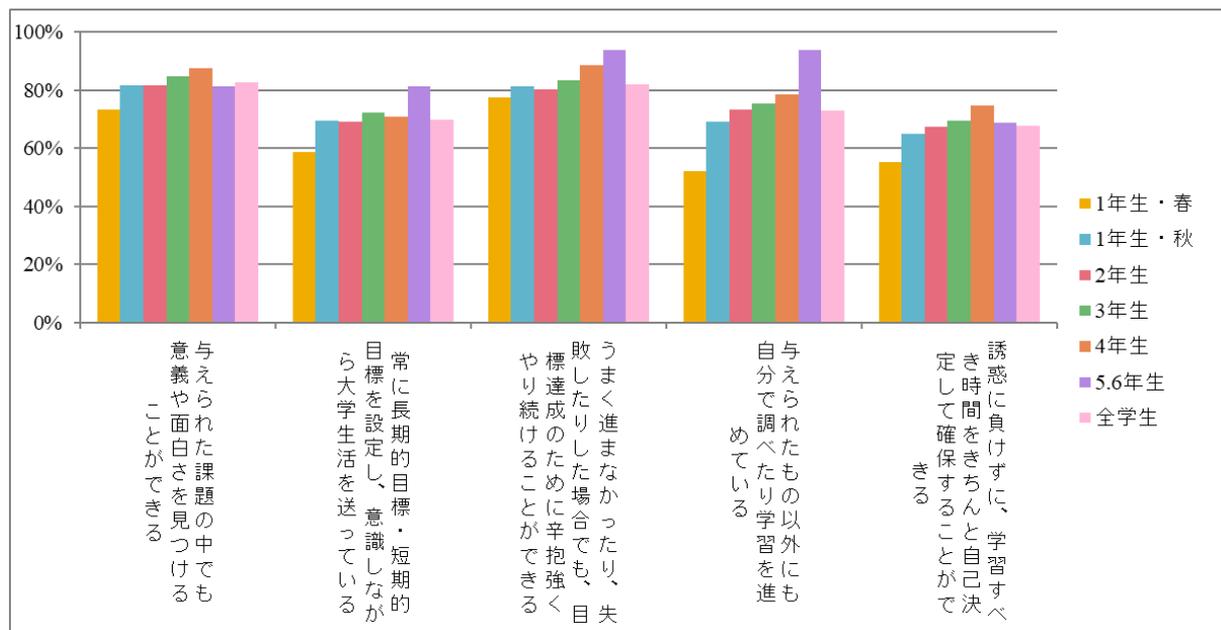


図 3 主体性（感じる力）の選択率（全学部生）

2.1.2. 「考える力」



考える力の下位概念 ④幅広い教養、⑤専門知識・技術、⑥論理的・批判的思考力について、学生は各項目について自分がその項目にあてはまると思うものをチェックした。項目と学年ごとの選択率を以下に示す。

④幅広い教養

「自分の専門と他の学問との関わりについて説明することができる」について、全学年を通して選択率が低い傾向が見られた。

表 4 幅広い教養（考える力）の選択率（全学部生）

	アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)						
	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	5.6年生	全学生	
④幅広い教養	全回答数 1096件	全回答数 1306件	全回答数 1079件	全回答数 1026件	全回答数 739件	全回答数 19件	全回答数 4169件	
考える力	学問に分野による優劣はなく、どの学問も重要であるという敬意を持っている	75.4%	83.8%	89.5%	89.6%	93.4%	87.5%	87.3%
	自分の専門分野以外についても、興味関心を持って知識や技能を得ようとしている	75.9%	83.1%	81.6%	83.4%	85.6%	68.8%	82.1%
	自分の専門と他の学問との関わりについて説明することができる	44.0%	60.3%	62.0%	67.7%	75.3%	75.0%	64.4%
	社会の一員として必要とされる教養について知っていて、それを磨こうとしている	72.5%	80.2%	80.8%	83.2%	86.7%	87.5%	81.2%
	ニュース・新聞などを使って時事問題についての関心を広げている	53.1%	66.3%	68.7%	73.3%	77.2%	56.3%	69.6%

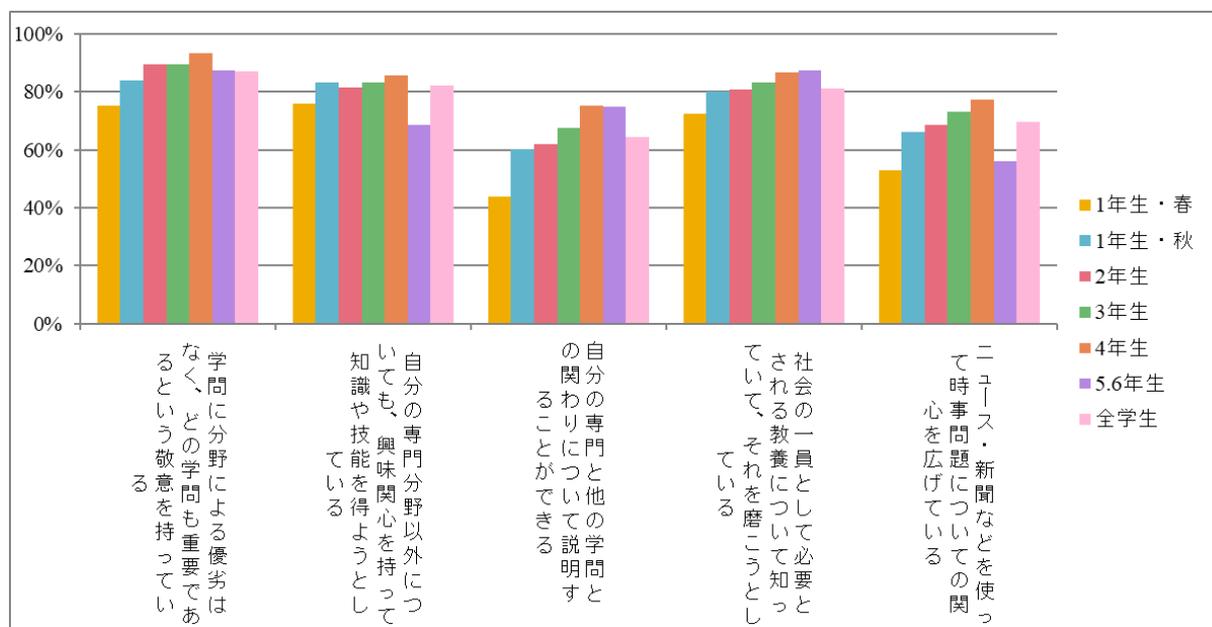


図 4 幅広い教養（考える力）の選択率（全学部生）

⑤専門知識・技術

4年生は1～3年生に対してほとんどの項目において選択率が比較的高かった。

表 5 専門知識・技術（考える力）の選択率（全学部生）

		アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)					全学生 全回答数 4169件
		1年生・春 全回答数 1096件	1年生・秋 全回答数 1306件	2年生 全回答数 1079件	3年生 全回答数 1026件	4年生 全回答数 739件	5.6年生 全回答数 19件	
考える力	⑤専門知識・技術							
	授業を通して専門領域の基本的な概念やスキル、技能を習得した	57.0%	83.7%	89.8%	91.4%	91.2%	93.8%	87.4%
	授業以外で、定期的に専門知識・技能を手に入れる習慣ができている（例：専門雑誌の講読、教員への質問、専門的トレーニングなど）	34.2%	55.2%	57.5%	63.6%	69.8%	81.3%	59.7%
	専門領域の中で自分の研究テーマ（追求したいテーマ）が定まっている	35.8%	52.2%	53.6%	64.1%	83.4%	62.5%	60.1%
	自分の専門について、知らない人にわかりやすく説明ができる	32.5%	50.9%	55.7%	65.8%	76.5%	81.3%	59.6%
	専門的知識や技術を使って、同じ専門の人とやりとりができる	29.7%	49.8%	56.3%	61.6%	68.0%	68.8%	56.9%

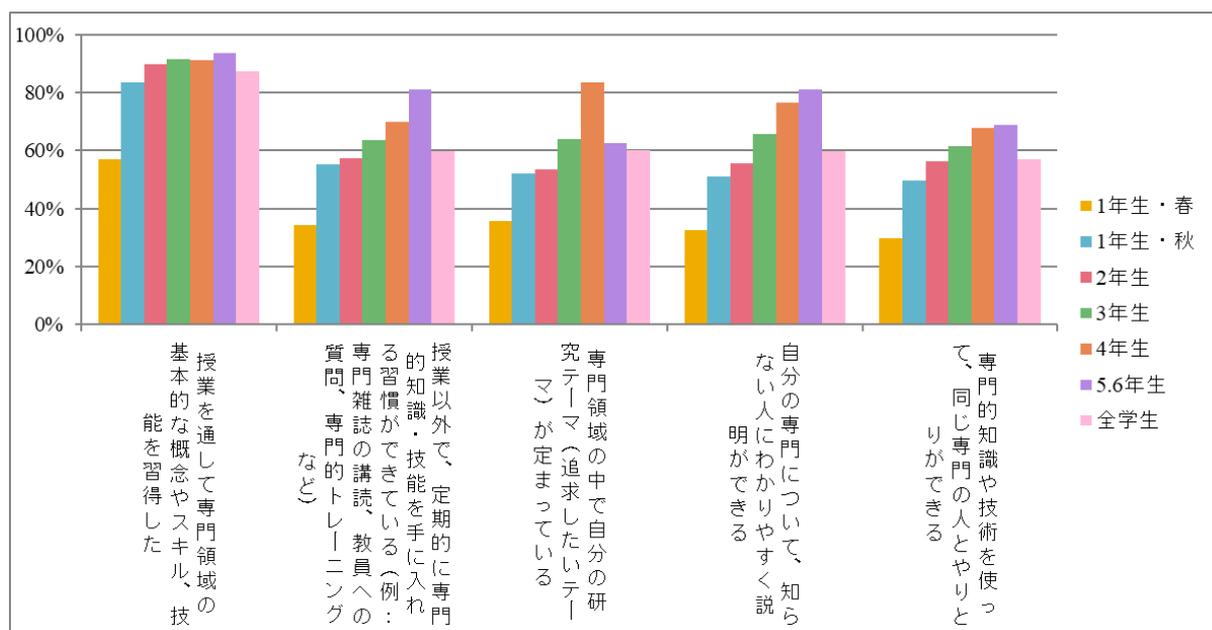


図 5 専門知識・技術（考える力）の選択率（全学部生）

⑥論理的・批判的思考力

全学年を通して、選択率が比較的高かった。

表 6 論理的・批判的思考力（考える力）の選択率（全学部生）

		アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)					全学生
		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	5,6年生	
考える力	⑥論理的・批判的思考力	全回答数 1096件	全回答数 1306件	全回答数 1079件	全回答数 1026件	全回答数 739件	全回答数 19件	全回答数 4169件
	論理的であるかどうかという観点から物事を判断することができる	68.2%	82.5%	84.3%	85.2%	87.2%	93.8%	83.4%
	物事を分かりやすく順序立てて説明することができる	58.6%	73.3%	71.9%	75.0%	80.5%	81.3%	73.7%
	自らが主張を行う際、その根拠として適切な客観的事実を示すことができる	64.6%	78.4%	77.2%	81.5%	85.4%	93.8%	79.1%
	自分が考えたことや思考過程について、それで良いのかを問うことができる	78.7%	88.5%	85.5%	89.0%	89.6%	100.0%	87.0%
	多様な観点から考えの善し悪しを判断できる	75.7%	85.7%	85.3%	88.9%	90.5%	100.0%	86.1%

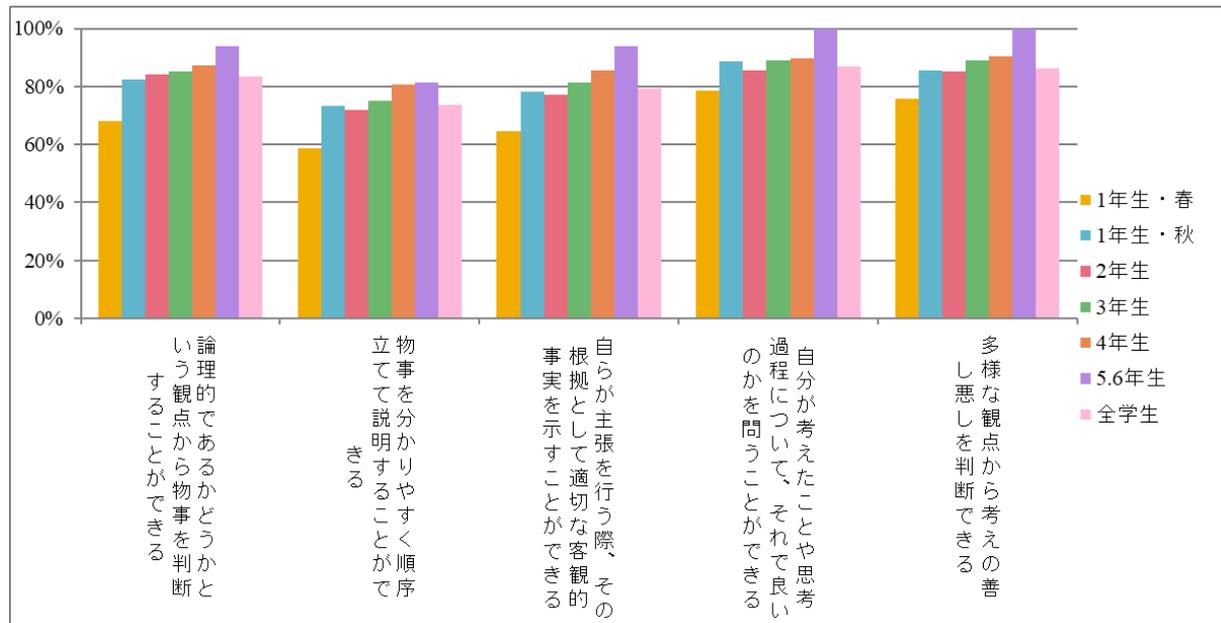


図 6 論理的・批判的思考力（考える力）の選択率（全学部生）

2.1.3. 「コミュニケーション力」



コミュニケーション力の下位概念 ⑦表現力（発表・討論・対話）、⑧リーダーシップ・フォロワーシップ、⑨実践外国語力について、学生は各項目について自分がその項目にあてはまると思うものをチェックした。項目と学年ごとの選択率を以下に示す。

⑦表現力（発表・討論・対話）

すべての項目において、1年生・秋の選択率は、1年生・春の選択率を大幅に上回っていた。また、4年生の選択率は1～3年生の選択率と比較してすべての項目において上回っている。

表 7 表現力（発表・討論・対話）（コミュニケーション力）の選択率（全学部生）

	アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)					
	1年生・春 全回答数 1096件	1年生・秋 全回答数 1306件	2年生 全回答数 1079件	3年生 全回答数 1026件	4年生 全回答数 739件	5,6年生 全回答数 19件	全学生 全回答数 4169件
⑦表現力（発表・討論・対話）							
学会や研究会、発表会などで研究や学習の成果についての発表を行った	23.2%	50.5%	47.4%	47.1%	58.3%	78.6%	49.6%
自分の意見を説得力のある形で伝えることができる	25.3%	64.9%	64.3%	66.5%	73.9%	92.9%	65.8%
自分と異なる意見も尊重し、先入観なく最後まで理解した上で、自らの意見を伝えることができる	48.8%	80.1%	79.2%	82.3%	86.5%	100.0%	80.4%
相手が受け入れやすい形で自分の意見を伝えることができる	39.9%	79.7%	76.1%	80.2%	84.9%	92.9%	78.7%
議論が対立した場合でもその調整を行い、結論にたどり着くことができる	34.6%	76.1%	74.8%	79.3%	84.2%	85.7%	76.9%

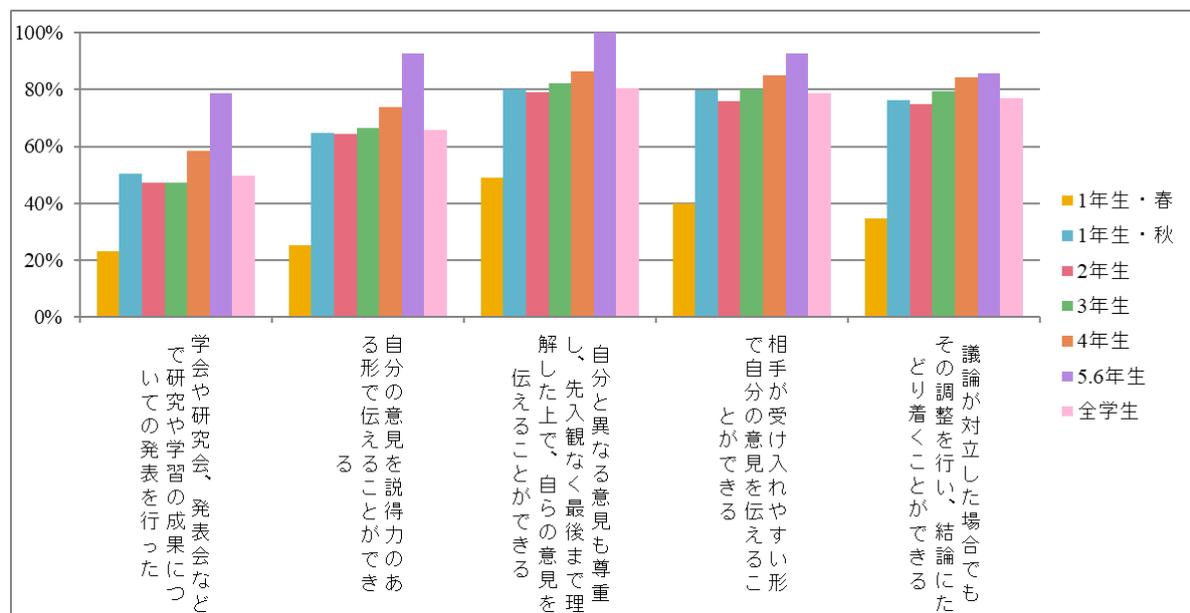


図 7 表現力（発表・討論・対話）（コミュニケーション力）の選択率（全学部生）

⑧リーダーシップ・フォロワーシップ

「自ら所属しているグループに貢献する行動をとることができる」「自分の考えに反することでもグループ全体にとってメリットがあることを優先する」の選択率は、全学年を通して高い傾向が見られた。

表 8 リーダーシップ・フォロワーシップ（コミュニケーション力）の選択率（全学部生）

	アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)					
	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	5,6年生	全学生
⑧リーダーシップ・フォロワーシップ	全回答数 1096件	全回答数 1306件	全回答数 1079件	全回答数 1026件	全回答数 739件	全回答数 19件	全回答数 4169件
成果目標を示して他人を巻き込む体験をした	39.2%	58.9%	56.7%	63.5%	66.1%	71.4%	59.9%
グループの活動が停滞したときに、メンバーに声をかけて前に進めることができる	56.9%	75.4%	71.4%	75.6%	77.6%	85.7%	73.7%
自ら所属しているグループに貢献する行動をとることができる	77.9%	89.3%	86.2%	88.0%	88.1%	100.0%	86.7%
自分の考えに反することでもグループ全体にとってメリットがあることを優先する	81.7%	86.6%	85.4%	89.7%	90.0%	92.9%	86.4%
初対面の人や気の合わない人、分野が違う人とも共通の目標に向けて協力しあうことができる	75.5%	84.1%	83.5%	86.4%	87.4%	100.0%	83.9%

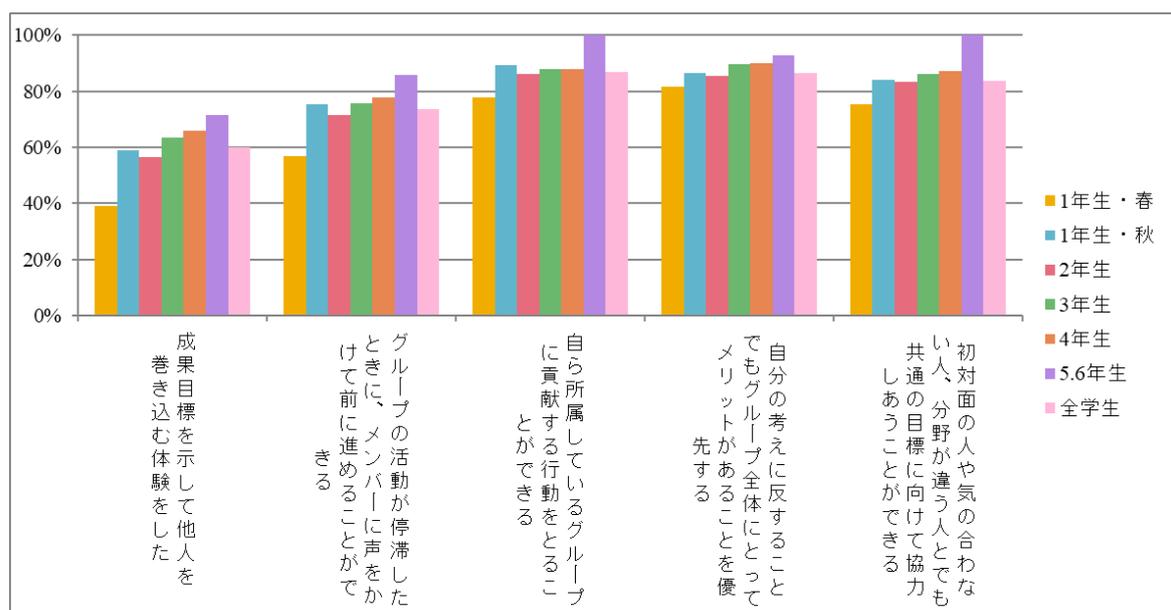


図 8 リーダーシップ・フォロワーシップ（コミュニケーション力）の選択率（全学部生）

⑨実践外国語力

選択率が低い項目が多く見られるが、「外国語で表現された一般的な情報を手に入れることができる」の選択率は、他に比較すると高い傾向にある。

表 9 実践外国語力（コミュニケーション力）の選択率（全学部生）

	アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)					
	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	5,6年生	全学生
⑨実践外国語力	全回答数 1096件	全回答数 1306件	全回答数 1079件	全回答数 1026件	全回答数 739件	全回答数 19件	全回答数 4169件
外国語で表現された専門分野に関わる必要な情報を手に入れることができる	21.3%	43.5%	46.7%	49.0%	57.8%	78.6%	47.6%
外国語で表現された一般的な情報を手に入れることができる	47.0%	64.4%	64.2%	66.7%	72.6%	78.6%	65.4%
外国語で日常生活に関する会話をすることができる	28.5%	49.0%	49.7%	50.4%	50.8%	50.0%	49.1%
TOEICで600点以上である	17.3%	42.8%	53.1%	50.8%	52.1%	100.0%	48.5%
外国語だけで話す生活体験を1日以上している	12.3%	31.4%	37.7%	39.1%	39.3%	78.6%	35.9%

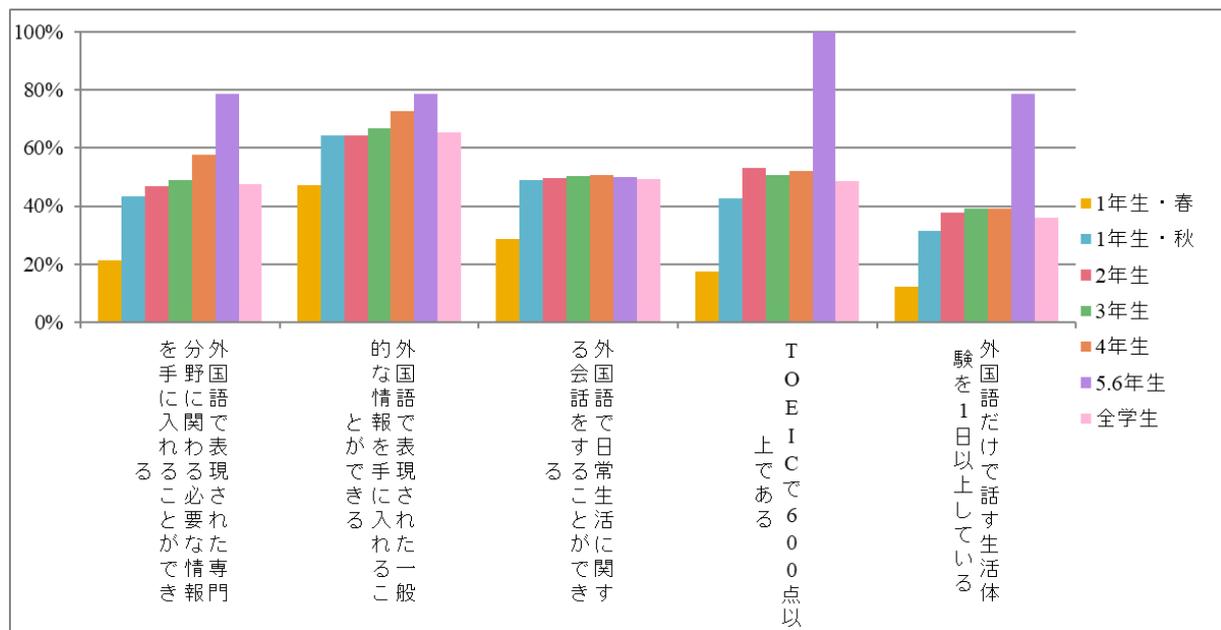


図 9 実践外国語力（コミュニケーション力）の選択率（全学部生）

2.1.4. 「生きる力」と「4つの力」



生きる力の下位概念 ⑩問題発見・解決力、⑪心身の健康に対する意識、⑫社会人としての態度・倫理観について、学生は各項目について自分がその項目にあてはまると思うものをチェックした。項目と学年ごとの選択率を以下に示す。

⑩問題発見・解決力

ほとんどの項目において、1学年から4学年へと学年が上がるごとに選択率が高くなる傾向が見られる。

表 10 問題発見・解決力（生きる力）の選択率（全学部生）

	アンケート1 (春実施)		アンケート2 (秋実施)					全学生 全回答数 4169件
	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	5.6年生		
	全回答数 1096件	全回答数 1306件	全回答数 1079件	全回答数 1026件	全回答数 739件	全回答数 19件		
⑩問題発見・解決力								
生きる力	解決すべき問題を自ら発見することができる	69.3%	81.2%	81.9%	87.7%	89.7%	92.9%	83.2%
	ICTや図書館を活用して、必要な情報を集めることができる	63.9%	74.9%	77.3%	82.5%	85.1%	85.7%	78.0%
	問題を解決するために創意・工夫を繰り返すことができる	66.7%	80.1%	81.4%	84.3%	86.3%	92.9%	81.3%
	多様な解決方法の中から、状況や条件に適した方法を選択できる	70.3%	82.0%	80.5%	84.9%	87.2%	92.9%	82.0%
	問題解決に向けて実現可能な計画を立てることができる	62.8%	75.2%	76.0%	81.2%	83.1%	92.9%	77.1%

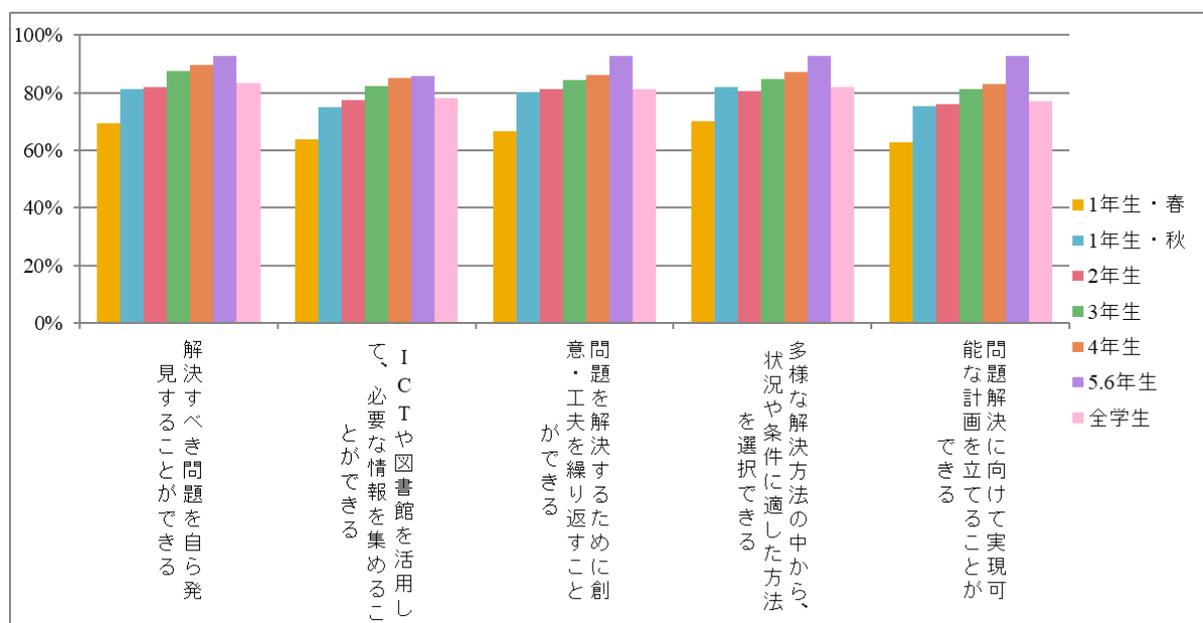


図 10 問題発見・解決力（生きる力）の選択率（全学部生）

⑪心身の健康に対する意識

「早寝・早起き・朝ご飯など基本的な生活リズムが整っている」は、選択率が他の項目に比べて低い傾向が見られる。

表 11 心身の健康に対する意識（生きる力）の選択率（全学部生）

	アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)					
	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	5.6年生	全学生
⑪心身の健康に対する意識	全回答数 1096件	全回答数 1306件	全回答数 1079件	全回答数 1026件	全回答数 739件	全回答数 19件	全回答数 4169件
生きる力							
早寝・早起き・朝ご飯など基本的な生活リズムが整っている	59.6%	65.2%	65.5%	63.7%	68.2%	78.6%	64.5%
感情の昂ぶりや落ち込みをコントロールすることができる	62.4%	75.4%	73.1%	75.5%	82.2%	85.7%	74.9%
定期的に適度な運動を行っている	60.6%	72.5%	70.1%	69.6%	74.0%	78.6%	70.3%
自分の物事の進め方に対するペースや感情、身体状態について把握できている	74.2%	85.1%	82.5%	86.1%	89.2%	92.9%	84.1%
自分の無理ができる限界を知っている	63.2%	76.7%	79.6%	79.1%	82.9%	85.7%	77.9%

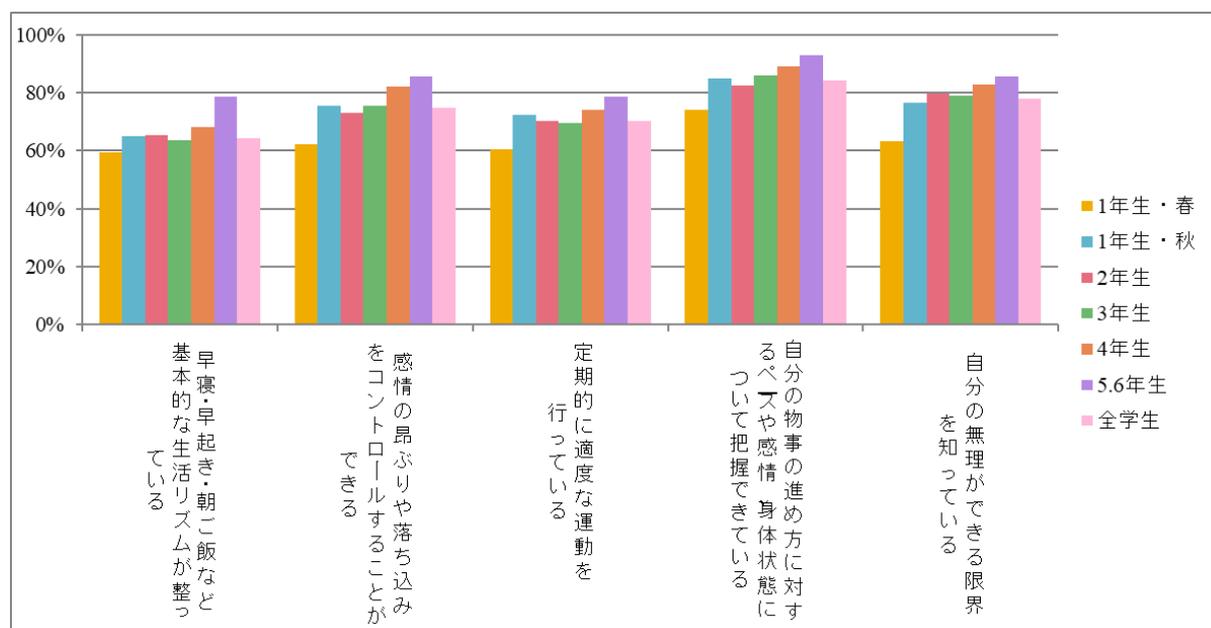


図 11 心身の健康に対する意識（生きる力）の選択率（全学部生）

⑫社会人としての態度・倫理観

「三重大学及び社会の一員として、マナーをふまえた行動することができる」は、すべての学年において選択率が高い傾向が見られる。

表 12 社会人としての態度・倫理観（生きる力）の選択率（全学部生）

	アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)					
	1年生・春 全回答数 1096件	1年生・秋 全回答数 1306件	2年生 全回答数 1079件	3年生 全回答数 1026件	4年生 全回答数 739件	5,6年生 全回答数 19件	全学生 全回答数 4169件
⑫社会人としての態度・倫理観							
三重大学及び社会の一員として、マナーをふまえた行動することができる（例：挨拶、時間厳守、敬語、手紙や電子メールの作法、受講態度など）	83.8%	93.0%	91.9%	92.1%	94.4%	100.0%	91.3%
自らの欲求や周囲に流されることなく、倫理的な基準をふまえた判断や自己決定ができる	50.3%	83.7%	84.6%	86.8%	92.1%	92.9%	84.8%
与えられた任務を責任感と当事者意識を持って遂行することができる	57.0%	90.1%	90.4%	91.9%	92.5%	100.0%	89.6%
場や状況に応じて適切な振る舞いをその都度考え、選択することができる	66.2%	91.0%	90.5%	92.2%	91.8%	100.0%	89.9%
専門領域における倫理的・法的基準（著作権など）に関する知識を持ち、判断し守ることができる	31.6%	80.2%	85.3%	87.4%	91.7%	92.9%	84.0%

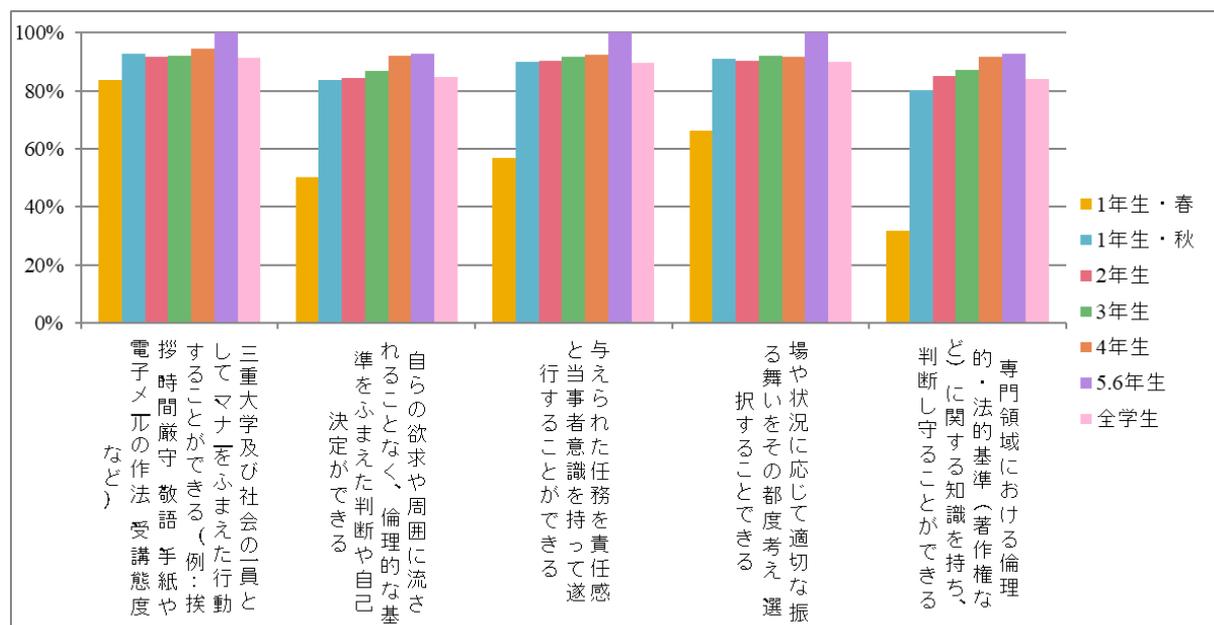


図 12 社会人としての態度・倫理観（生きる力）の選択率（全学部生）

「4つの力」の修得について、「全くそう思わない」から「非常にそう思う」の5段階で回答を求めた。4項目について、在籍年数別の平均値を算出した。平均値が高いほどその項目の内容にあてはまることを表している。

表 13 「4つの力」を身につけることについての平均値（全学部生）

	アンケート1 (春実施)	アンケート2 (秋実施)					
	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	5,6年生	全学生
「感じる力」を身につけることが大切だと思いますか	4.41	4.06	3.98	4.00	4.05	4.07	4.02
「考える力」を身につけることが大切だと思いますか	4.53	4.16	4.06	4.09	4.14	4.21	4.11
「コミュニケーション力」を身につけることが大切だと思いますか	4.58	4.21	4.12	4.15	4.19	4.21	4.17
「生きる力」を身につけることが大切だと思いますか	4.53	4.14	4.06	4.10	4.12	4.14	4.11

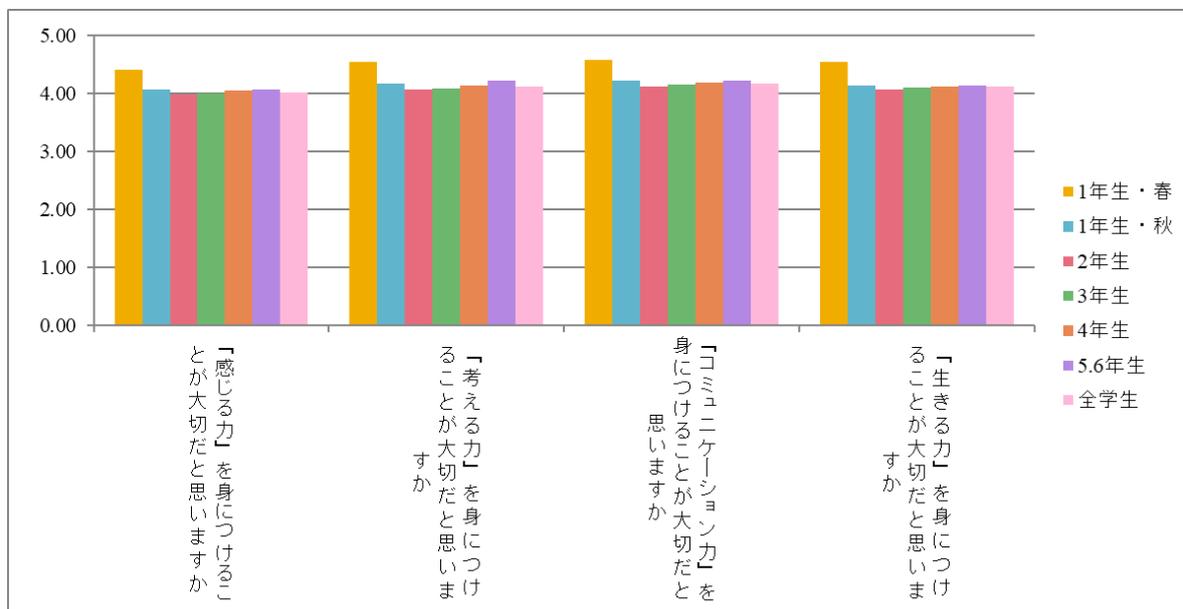


図 13 「4つの力」を身につけることについての平均値（全学部生）